

「馬糞風」という北海道、中でも十勝の春の風物詩を御存知だろうか。風物詩というと格好良いものと思ってしまうが、十勝や北海道の人に、『今はそんなものはない云々』と怒られること必定だ。馬糞風というのは、馬車輸送が盛んだった頃、冬の間には凍っていた路上の馬糞が、強風にあおられて舞い上がる様を言い、一見黄砂にも似て黄色いようだ。当地でも、今では春先のこの風を「馬糞風」と呼ぶ人はいないようだ。内地同様「春一番」と呼ぶが、馬糞風のほうが情緒がある。乾燥しているとは言え、馬糞なので、やや臭い。

十勝平野の防風林には驚かされる。防風林はまさに朔東を象徴する風景のひとつである。因みに防風林は正式には、『防風保安林』と呼ばれ、17 種ある保安林の一つである。防風林の効果は、風下側で、樹高の 30 倍、風上側でも 8 倍くらいとの調査もあるようだが、一般的には 10 ないし 20 倍とされている。時には風下側で 2~4℃の昇温作用もある。防風と言う目的は同じでも、所謂防風林とは風景を異にする、屋敷林も多い。屋敷林は、基本的には特に冬の偏西風を抑えて寒さを凌ぎ生活を楽にする事を狙いとしているので、冬に見れば解るとおり常緑樹が主体である。逆に畑地を囲む防風林は、「飛砂の防止」を狙いにしており、カラマツが殆ど（70%程度）であるが、エゾ松、トド松もある。白樺は珍しい。カラマツが多いのは成長が早く真っ直ぐに伸びるからだ。いわゆる内陸防風林といわれる十勝平野の防風林は日高山脈から眺めると絶景とか。大正、川西には 580ha の防風保安林がある。防風林は殆ど南北に植えられている。理由は、①西風、特に春の強い西風から種や土の飛散を防止するため②東西に植えると北側が日陰になり、作物の成長に影響を及ぼすからである。

追って十勝の防風林の写真をアップしたいと思います。

当地も雪が急速に融けつつある。凍土が気になって、当地の平均的凍土の深さを調べて貰った。オホーツク海側内陸部及び太平洋側内陸部は 70 から 100cm、太平洋沿岸部および根室海峡側内陸部で、50 から 70cm、根室海峡側沿岸部及びオホーツク海側沿岸部で 30 から 50cm だという。しかしながら、近年暖冬傾向が強くと、実際は浅いのだろう。永久凍土は、平均気温が概ねマイナス 2 度C以下で形成されるそうだが、森林組合帯広支局の説明によれば、大雪山系には各所に存在するという。

雪に覆われて余り目立たないが、酪農が盛んな十勝地方ならではの黒いビニールで丸く牧草の玉、サイレージと言うのだそうだが、適度に発酵しており、牛は好んで食べると言う。また、牛乳で作ったと言う「牛乳豆腐」を食べさせて頂いた。初乳で作るのだそう。

初乳は、タンパク質が多くて豆腐を作るのに適していると言う。数百等を飼育する農家であれば、毎日一頭は子牛が誕生するので、作ろうと思えば、毎日でも牛乳豆腐を作ることが出来る。初乳は子牛の為のものであるので、云々と言う方もいるようだが、

サイレージを積み上げ、「交通安全」等の文字が書かれた物を見かけたが、面白い活用法である。

さて、スキーの時に新得町の「LADIES FARM SCHOOL」なるものに興味を持った。

町長や議長がレディースの者がスキーに来ている、彼女〇〇は何処出身で、どういう娘さんだよと皆を良く知っておられたからだ。

町長・議長の説明によれば、平成8年度から始めた事業で、農業に関心をもって農業実習に励む女性を支援するための女性専用のスクールである。酪農を主とし畑作をも含めたコースを一年間のコースと比較的短期のコースとに区分して、彼女らが受けるカルチャーショックを和らげる目的で宿泊施設や実習室、講習室を持った総合的研修施設を設けている。彼女らはその施設を拠点として、4ヶ月毎に違う農家での実習を通じて農に興味と関心を持って貰おうというものである。細部は割愛するが町長以下町民の彼女らに対する思い入れは相当だ。町挙げて、彼女らに期待もし、彼女らが存在することで町民にも新たな動きが出てきたそう。見事な相乗効果である。そして町長等の期待通りに彼女等のうちある者は地元に残って農を志してくれるそう。言うまでもなく、そういう彼女らにも町は支援している。農家に嫁ぐ者もいるという。十勝は言うまでもなく、北海道否日本の食料基地である。各町村は、独自の方策で、生き残りをかけ、更なる発展を期している。その活動に感動した。細部は、<http://www.ingweb.co.jp/shintoku/index.html>等を参照。